

知財AI導入の2大戦略：オムロン型（内製・統合）vs 島津製作所型（モジュール・SaaS）

「オムロン型」戦略統合の内製型

全社生成AI推進とR&D基盤を母体に、知財機能（特許調査、IPランドスケープ、戦略策定）を研究開発・技術戦略へ深く統合するモデル。



最適化の対象：企業能力
「知財AIを企業能力として定着させる設計」を追求



AIガバナンス委員会や知財センターとして、独自・認定的な組織的な活用能力を高める。

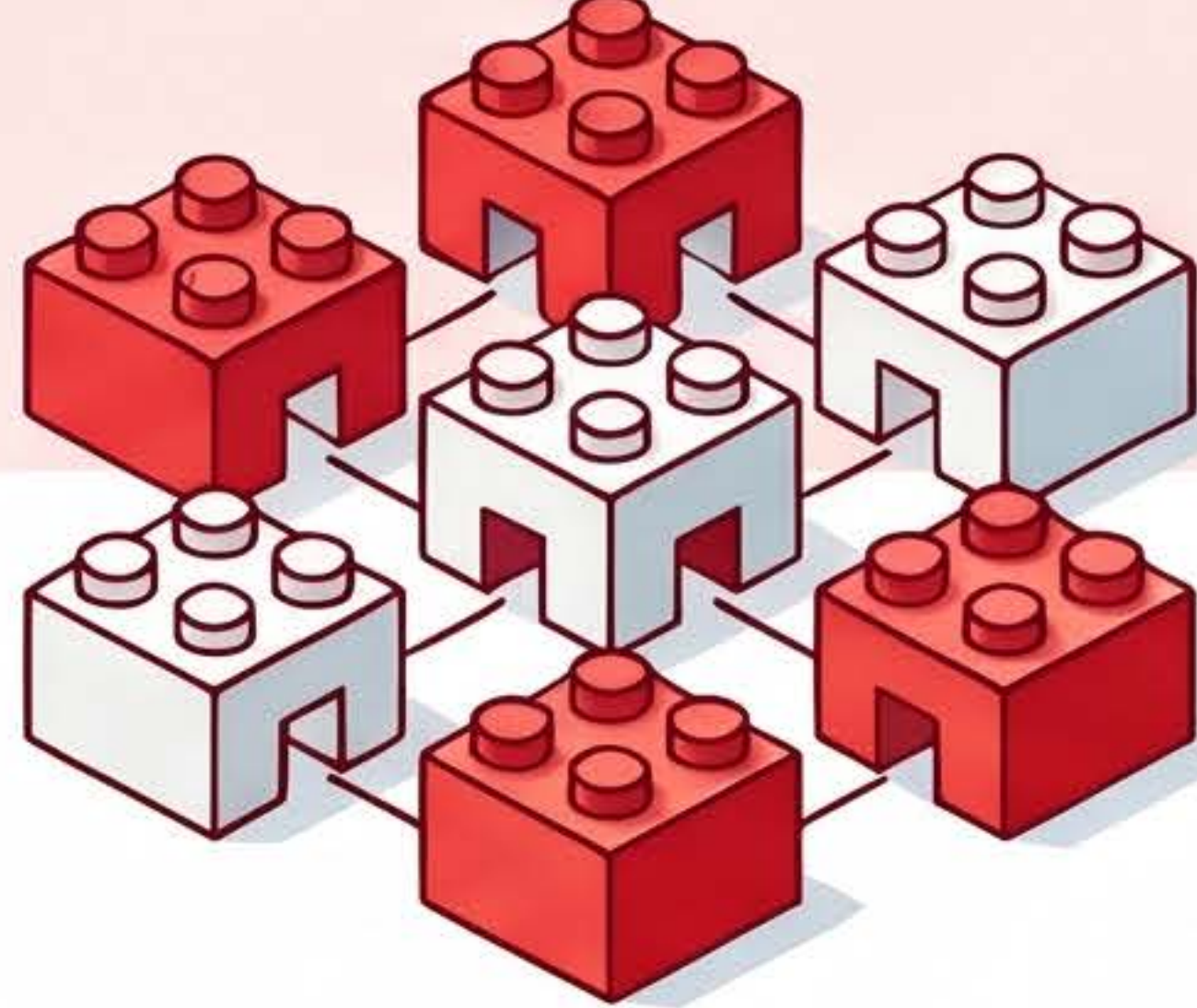


高度なセキュリティ
(暗号化、監査ログ)

関連する公的ガイドライン・資料（参考 Data Table）

METI	島津製作所合は、IEMIX-モジュールなどよび新明研究調査含において、発明（特別登・ライドコストリーク理解戦略策定）
IPA	投資助:PA公的ガイドライン、IPA、IEMIX有産併園定などの準参考裁家園
日本弁理士会	日本弁理士会流行政部分弁調関・誠会流務達関
特許庁	特許庁（政府開済閣に関する委科書

【島津製作所所】業務モジュールの実装型



知財部の暗黙知をAIで形式知化し、発明届出、翻訳、FTO、契約レビューなどを独立した業務モジュールとしてSaaS展開するモデル。



最適化の対象：業務効率
「導入企業が評価しやすい、即効性のあるツール」を追求



OpenAI API



Gemini API



SaaS構成



学習・二次利用禁止契約、ユーザー主導のデータ削除機能

島津製作所が示す定量的な導入効果（2025年度目標）



年間**8,000**万円
外部コスト削減

2025年度には外部費用を大幅に圧縮する見込み。



発明届出の工数を
50% 削減

発明の言語化や届出業務をAIがサポート。



他社特許
スクリーニングを
90% 削減

手作業で行っていた膨大なスクリーニング業務を自動化。

あなたの会社はどちらのタイプ？（推奨アプローチ）

長期的な企業能力、R&D・経営・知財の統合を重視

「オムロン型」内製・統合モデル

目指すゴールは？

現実解としての「ハイブリッド型」
ステップ1: SaaS（島津型）先行導入で早期効果
→ ステップ2: 戦略領域を自社開発（オムロン型）へ

短期的なROI、少人数部門での即効性を重視

「島津型」
実装・モジュール（SaaS）モデル